

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

平成二十四年度 看護研究演習発表会

昨年十二月十四日(金)に、看護研究演習の発表会が行われました。看護研究演習とは、いわゆる卒業論文にあたる、大学での学びの集大成といえる科目の一つです。

今年度は五十六題の演題が発表されました。年々二名から四名程度で研究を行う共同研究が増えていきましたが、今年は三十題と半数を上回りました。

研究の対象は、本学学生、大学生、高校生、医療者、介護職者、当事者やその家族などで、アンケート調査やインタビュー、実験、文献など、データ収集方法も多岐にわたり、研究テーマも幅広い発表会となりました。発表する前は緊張した面持ちだった四年生も、発表の際にはパワーポイントや配布資料に工夫を凝らし、また質疑応答の際にも堂々と対応していました。今年から始まったパワーポイントでの口述発表は、テーマに合ったテンプレートを採り出して使用したり、図表を工夫したり、絵やイラストで表現するなど、限られた時間の中でも自由な発想で研究成果を示しており、学生のプレゼンテーション力が発揮されていました。

発表会には四年生だけではなく多くの一―三年生が訪れて、発表資料に目を通したり発表者に質問して参加していました。特に、本学学生を対象とした研究には多くの学生が来場し、研究結果への関心を伺わせました。

ほぼ一年間という長い時間を、実習や国家試験に向けての学習、

就職活動と並行して力を尽くした看護研究演習で学び得たことは、きっと学生の皆さんの糧となることでしょう。

座談会

「看護研究演習(卒業論文)発表を終えて」

―発表時間が足りない。やったことの一部しか伝えられなかった。三十分くらいで、ちゃんと説明しなかった。

―しんどかったが、一つのことを追求したぞ、突き詰めたぞ、という感じ(笑)。何でも質問されても良いというくらい自信持てた。ちゃんとやったからこそ、ずっとやってきて質問されて答えられなかったら恥ずかしいよね。それくらい自分の研究に達成感がある(笑)。

―はじめは先が見えず終わりが見えず、でも終わった。やった分、取り組んだ分、量(論文のページ数や厚み)としてみられたことも実感した。

―一言で言えば「つらかったー(笑)」。分析はみんなが手伝ってくれて助かった。

―みんなで分析してみんなの思いがわかって、三人で三つの研究をしているって感じだね。

―地域の人にインタビューをお願いする時、倫理(的配慮)とか気を付けて説明したり、自分たちで考えて教えてもらいながらやれた。勉強になった。対象者さんにお願

いすることも貴重だった。どのよう



―ただど地域の人にインタビューできたことがとても貴重だった。

―インタビューして、話したいこともあるのだと分かった。文献を読んでいる自分がこう思っていることがインタビューでは実際に違ったり、違うことが分かったり新しい発見だった。

―途中でどうしようかと思った。こんなにも頭を使ったのは研究だけかも。何をみても答えはないし、一つのデータからこれだけ考えたのは初めてだった。研究で、自分で考えて結果を出した。人の前で発表もした。今後の看護にどのよう

―自分のインタビューを聞いて、自分のコミュニケーションは「何こんなことを聞いているのか」と思ったり、恥ずかしくなった。

―インタビューの時、人と時間を約束して緊張した。よく知らない人を快く家に上げてくれると思っ

た。特にインタビューでは気をつけないといけないとか、その場の雰囲気からこの質問内容は聞いてはいけないと思っただけでもあった(後輩に一言アドバイスするとしてら……)

計画的にやったらよい。と、三月



の自分に言っても無理だし(全否定)。テーマはやりたいことや疑問に思ったことをやった方が続く。興味があることについてやるため知識もつくし文献を読んでいても内容が入ってくる。そうやって視野が広がってその分野が得意分野になっていくんじゃないかな。

(四年 伊藤 健太、岡部 結衣、金野 高峰)

看護研究演習(卒業論文)

発表会に参加して

三年 中島 甫

将来働くときに役に立つ研究や、男子学生が気になっていることをテーマにした研究などに興味や関心がありました。でも、ちょっと自分には理解しにくい研究もありましたね。発表が始まる前に資料をいただいていたからその発表を聞いたのがよかった。

実習や国家試験の勉強しながら、テーマが決まっていなくていいところからやり遂げていることがすごいです。しかも、完成度が高い。

研究のしかたや資料の作り方も参考になりました。三年生も質問できたよかったです。四年生優先なのかな。

看護開発センター公開講座

日航機墜落事故救護活動の体験から、今語れること、語り継ぐこと



看護開発センターでは、平成二十四年十月十二日(金)に前田陽子氏(前橋赤十字病院 副院長兼看護部長)をお招きし、公開講座を開催いたしました。前田氏は一九八五年に発生した日航機墜落事故で壮絶な救護活動に当たられ、「日航機墜落事故救護活動の体験から」今、語れること、語り継ぐこと」と題し、事故から二十五年がたった今、看護職を目指す学生や市民の皆さまに向けお話をいただきました。これまで語られることのなかった経緯をはじめ、救護活動の実際の経過を時系列に

ご説明いただき、想像をしていた赤十字としての救護活動とは全く異なる現場の混乱、戸惑い、そしてそこから見出された赤十字としてのご遺族への支援を語られました。事故の衝撃でばらばらになったご遺体を元の形に整えること。部分しかなくてもご遺体があるよ

うに作り出したこと。刻々と変化する現場の状況へのご苦労を伝えていただきました。講演後、参加した学生から「赤十字としての誇りを感じました」と涙ながらに語られ、前田氏の言葉が次世代に伝わったことを感じました。

北海道大学名誉教授鈴木 章先生
受賞講演会「ノーベル賞を受賞して」

平成二十四年十月十七日(水)、北見芸術文化ホールにて、ノーベル化学賞受賞者鈴木章北海道大学名誉教授による、受賞記念講演「ノーベル化学賞を受賞して」が開催されました。本講演会は、北見工業大学社会連携推進センター(旧・地域共同研究センター)との共同で開催いたしました。

講演会当日は、高校生、大学生から市民の方々がホールが満員となりました。

鈴木名誉教授は自身の学生時代に出会った本によって有機化学への道を志したこと、スライドを使い、受賞の対象となったクロススカップリング反応の実用例、それが、今現在のわれわれの生活の如何に役に立っているか、など、研究に

関するお話をしてくださいました。また、ノーベル賞の受賞が決まった瞬間からストックホルムでの授賞式での様子、ノーベル賞受賞の際に頂いたメダルなど、普段我々が体験することのできない世界のことについて、ご自身の体験談を交えながら話してください、会場は和やかな雰囲気になりました。最後は学生へ向けてのメッセージとして、資源の少ない日本で科学的な研究をすることの重要性、独創的な研究をすることの大切さについて熱く語られ、会場からは大きな拍手が起りました。講演終了後も、鈴木名誉教授への質問が相次ぎ、講演会は盛況のうちに幕を閉じました。

新カリキュラム

「看護の統合と実践I」OSCE(看護技術評価)を実施して



四年生の統合分野科目「看護の統合と実践I」において、OSCE(客観的臨床能力試験：通称オスキー)を実施しました。OSCEは知識重視の教育ではなく、判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に判断する方法として注目されており、看護基礎教育で年々実施するところが増えてきています。本学でも、四年間で培われた自己の看護実践能力を客観視でき、自己の課題を明らかにすることを目的として、昨年から準備をはじめました。

試験は、十二月十九日の水曜日でした。学生九十七名は、八時五十分集合し、九時から十七時まで、基礎・成人看護実習室において、



順次一人づつ、六ステーションに分かれて、臨床技能試験を受けました。学生の行動は、指示されたステーションに入室し、課題文読み実施、フィードバック(教員と模擬患者)、退室でした。今年の課題文は、基礎・成人・老年看護学領域を網羅した複合問題でした。

学生アンケートには、「OSCE実施時は、大変緊張した」、「卒業後に役立つと思った」、「刺激的でおもしろかった」という肯定的な感想と、次年度の課題として、国家試験勉強との関係で、実施時期の検討が示唆されました。

模擬患者として地域住民の方々二十八名のご協力により、臨場感あふれる試験場面を設定できました。また、「学生達のプロ意識が感じられた」との暖かいエールのお言葉を頂きました。参加した皆様、大変お疲れ様でした。

本学の平成24年度国家試験合格状況(新卒者)

	受験者数	合格者数	合格率(%)	合格率(全国%)
看護師	99	99	100.0	94.1
保健師	95	94	98.9	97.5
助産師(大学院)	2	2	100.0	98.9

平成二十四年度

保護者懇談会

平成二十四年度の保護者懇談会が十月十四日(日)に本学において開催されました。一年生から四年生まで四十五名の保護者の皆さまにご参加いただきました。遠方からお越し頂いた方もおり、大変感謝しております。冒頭、河口てる子学長から「ご父兄の方から保護者懇談会で何を聞いたら良いかわからないから参加しづらいという声を聞きました」との言葉があり、本学からご父兄の皆さまへの

さらなる情報発信の必要性をお話しされました。個別懇談では、学生さんの担任から様々なご相談を受け、本学への要望もいただきました。また懇談後は保護者の皆さまの交流の場ともなったようです。いただきましたご意見を踏まえ、来年度に向けより良い懇談会となりませう進めてまいります。来年度もたくさん保護者の皆さまのお越しをお待ちしております。



奨学金貸与状況

平成25年3月現在

名称	貸与金額	1年生	2年生	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部管内奨学金	年額 60万円~120万円	77	74	58	67
日本赤十字社看護師同方会	月額 3万円	3		2	1
北海道看護職員養成修学資金	月額 3.2万円	2	3	2	3
北見市大学生奨学資金	年額 60万円限度	27	30	25	29
北海道厚生連奨学金	月額 4万円~5万円			6	4
北海道看護協会奨学金	月額 3万円	2		1	1
日本学生支援機構 第1種奨学金	月額 5.4~6.4万円	17	24	14	20
日本学生支援機構 第2種奨学金	月額 3~12万円	42	54	42	37
日本赤十字社医療センター奨学金	年額 60万円			1	
武蔵野赤十字病院奨学金	年額 60万円			1	
さいたま赤十字病院奨学金	年額 60万円	1			
秦野赤十字病院奨学金	年額 120万円	1	1	1	
名古屋第一赤十字病院奨学金	年額 60万円				1
日本赤十字社和歌山医療センター奨学金	年額 60万円		1	2	3
日本赤十字社千葉県支部奨学金	年額 100万円	2		1	
日本赤十字社兵庫県支部奨学金	年額 60万円			2	

総合科目Ⅰ 植林

今年度の総合科目Ⅰでは新たな試みとして、植林作業を行いました。

六月一日、自分たちの暮らす地域の自然を足元から見てみようとして、北見から網走にかけて広がるオホーツクの森を舞台に、自然再生モデル林内に、ミズナラやイタヤカエデなどの広葉樹の苗を植えました。

学生たちのほとんどが初めての経験だったらしく、ぎこちなく鍬を振り下ろしたり、笹の根の硬さに悪戦苦闘しておりました。しかし、作業が終わると達成感があったようで、自分たちの植えた苗の前で笑みを浮かべてい



ました。学生たちの植えた苗のうち、どれくらいが立派な木になってくれるでしょうか？学生たちの気持ちが大地に根付いてくれることを願っております。



この事業にご協力いただいた常呂川森林環境保全ふれあいセンターの皆様、さらに応援で駆けつけてくださった関係者の方々に感謝いたします。

総合科目Ⅱ パークゴルフ

十月四日(木)、北見市川東河川敷パークゴルフ場にて総合科目Ⅱの第一回目としてパークゴルフを行いました。パークゴルフは一九八三年に幕別町で生まれたニュースポーツです。

当日は七名の学生が参加し、北見市パークゴルフ協会から八名の指導員の皆さんを迎え指導頂きました。学生よりも指導員の方が多という贅沢な授業となりました。学生たちは初めての体験でコースを回るうちに見る見る上達していきましました。中には人生初の第一打目にホールインワンとなった学生もあり、大変盛り上がりましました。やや気



温が低い日でしたが楽しいプレイで寒さも忘れるほどでした。改めてご協力頂いた北見市パークゴルフ協会の皆様に感謝いたします。

北見市パークゴルフ協会



平成二十五年度 入試情報

(看護学部)

推薦入学試験(定員四十五名、社会人入学試験(定員若干名)が十一月十八日(日)に本学及び札幌を会場に行われ、推薦の受験生八十五名及び社会人の受験生六名が小論文と面接の試験を受験し、推薦入試で五十四名、社会人入試で一名が合格しました。また、一般入学試験前期(定員四十名)は、平成二十五年二月二日に本学、釧路、帯広、旭川、札幌、函館、東京の七ヶ所で行われ、一九九名が受験し、合格発表は二月八日(金)にセンター入試(受験者、一五二名)と併せて行われました。(合格者、一般入試・七十五名、センター入試・四十四名) さらに、今年度からは新たに一般入学試験後期(定員五名)が三月二日(土)が本学及び札幌で実施され、三十八名が受験し、六名が合格しました。

(看護学研究科)

推薦入学試験及び前期の一般入学試験が九月二日(日)、後期の一般入学試験が平成二十五年二月二十四日(日)、いずれも本学を会場に実施され、十二名が合格しました。 さらに三月二十日(水)に一般入学試験を本学で実施し、合格発表は三月二十二日(金)に行われます。

編集後記

Viva Kango 第三十六号をお届けします。「看護研究演習発表会」を中心に新カリキュラム「看護の統合と実践Ⅰ」、「総合科目ⅠおよびⅡ」、講演会等の行事について掲載しました。この冬は悪天候が続ぎ、各地で大雪の被害もありましたが、ようやく春らしい気候になりました。あるようです。ご自愛専一のほど祈りあげます。 なお、次号からは、広報委員会の新メンバーが担当いたします。ご期待ください。



日本赤十字北海道看護大学学内誌
Viva Kango
 第36号
 発行日/2013年3月31日
 編集・発行/広報委員会
 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
 mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
 http://www.rchokkaido-cn.ac.jp